

山本ひろこさん残念な結果になりましたが、青木英二区長の広報・ポスターは看過できないものがあり、下記の文章を目黒区のホームページから区長へのメールへ4月27日に投稿しました。

---

青木英二区長はこの度の選挙に「何としても共産の手から守ります。」と選挙公報や掲示板のポスターに表示されていました。また、目黒を守る会のビラにも「現職で目黒を守るに YES! × 共産で目黒を壊すに NO!」と大きく書かれています。この真意が理解されかねますのでお訊ねします。

文面からは、住みやすい目黒を守ってきたのが青木区長であり、これに反対して目黒を壊してきたのが共産ということになります。

質問 1、何故共産党とはいわなかったのでしょうか？

ここでいう共産とは、共産党支持者、同調者を指すものでしょうか。また、同調者も含めるとすれば、立憲民主党をはじめ野党共闘と市民連合で候補者を擁立した人たち全部を対象としたものでしょうか？

質問2、「共産で目黒を壊すに NO!」とは、具体的に何を誰が壊そうとしてきたか、あるいは壊してきたかお答えください。

質問 3、「何としても共産の手から守ります。」は、公約でしょうか？ それとも青木英二さんの思想または、政治上の信条というべきものでしょうか？

公約とすれば、共産の手から守る政策をお知らせください。

思想または、政治上の信条だとすれば、今回の選挙での青木区長の得票率は40%弱、有権者全体の15%にも足りません。多くの区民を代表する区長の立場からいえば特定の支持者の立場を優先することなく、また、少数を排除するのではなく公明公正でなければならないはずです。その点「何としても共産の手から守ります。」は、80年以前の日独伊の防共協定を想起させるフレーズで民主主義に背を向けた過去のものです。

以上、これからの区政を進めるうえで「何としても共産の手から守ります。」がどんな意味を持つのかをお答えください。